

2022年3月期通期決算説明会 主な質疑応答内容

2022年5月20日(金)に開催した、弊社「2022年3月期通期決算説明会」の中で行われた、主な質疑応答内容について、以下に記します。

なお、記載内容については、質疑応答内容をご理解いただきやすいよう、表現の変更や加筆・修正を行っております。

問1. 原材料や物流費の高騰などのコストインフレについて、今期の計画にどれくらい盛り込まれているのか。また、今期どのような対応をするのか知りたい。

答1. 今期の計画には、それぞれ前期並みの、原材料高騰90億円、輸送費高騰30億円を盛り込んでいる。対応としては、売価スライドのルール反映を含め、お客さまのご理解を戴き、半分程度の回収を織込んでいる。

問2. 中期計画の達成のために、今後追加的な合理化策があれば知りたい。

答2. お客さまへの納入責任は前提として、米州のマーケットに対してどのような生産供給体制を構築していくのかを考えている。例えば、生産コストの面から、米国からメキシコへの生産移管など。ただし、お客さまへ了解を得る必要もあるので、時間がかかると認識している。また、欧州エリアについても、同じような考え方をしている。

問3. 電動化ソリューションについて。具体的な受注状況について知りたい。また、御社の競合に対しての競争力を知りたい。

答3. 成長を期待する3領域について。熱マネジメント向け製品について、いくつかお客さまから引き合いがある。また、自動運転向けについては、新たな製品としてはブレーキ周り。小型モビリティ向けは、受注型ではなく、標準品の開発を行っている。

事業規模については、既存の製品売り上げも合わせ、400億円程度。2030年までには1.5倍程度に成長させていきたい。

競合他社との差別化としては、BCPの観点で、レアアースや電磁鋼板など今後不足してくる材料を置換させた製品の開発を行っている。また、減速機とセットで、非常に薄型の製品などが、競争力と認識している。

問4. カーボンニュートラルの説明の中で、製品のライフサイクルに言及されている会社は珍しいと思うが、どのような背景があるのか教えて欲しい。

答4. 製造過程におけるCO2排出量削減の話はよくあるが、当社としては製品のライフサイクルで考えていきたいと思っている。今後、この部分の活動結果を、商品魅力に追加して、競争力の源にしていきたいと思っている。